

優秀賞

しやんりんりん

鹿児島県 鹿児島市立春山小学校二年 小浦 泰我

「あーば、これなあに。」

とぼくがふしぎそうに聞くと、

「これは、しょうろうさんと言って、おぼんにかえってきたごせんぞさまを、あのよまではこんでくれるふねだよ。」

と教えてくれました。そう言ってあーばは、おそうめんをゆでたり、おにしめを作ったりしていました。

「どうして、たべものの中に入れるの。」と聞くと、

「これは、あのよに行くまでにおなががすくとかわいそうだから、たべでもらうために入れてるんだよ。」

とやさしく教えてくれました。

ふねの中にたべものとうろそくとおせんこうをじゅんびして、

「さて、川にながしに行こうか。」

とあーばは言って、ぼくとおかあさんといもうとおとうとをつれて車にのりました。あーばの車の中には二つのしょうろうさんがありました。ひとつはぼくのおじいちゃん分。もう一つはあーばのおかあさんの分でした。

川につくと、ぼくたちがいい人がいました。その人たちもしょうろうさんを川にながしにきていました。

あーばは、その近くでズボンのすそをぐっと上げて入りました。手には二つのふねをもって。とちゅうでろうそくにそつと火をつけました。

「またらい年かえってきてね。気をつけて行ってね。」とやさしく言っていました。あーばは、とてもさみしそうなかおをしていました。

「あーばはさみしいの。」

とぼくが聞くと、

「すこしね。でも、たっちゃんがいてくれるからさ
みしくないよ。」

とほえんで言いました。

ぼくは、またらい年もあーばとしようろうさんを
ながしに行きたいです。もうすこし大きくなったら、
あーばのかわりに川に入って、しようろうさんをな
がしてあげたいなあと思いました。

今年のおぼんも、ぼくもおじいちゃんとおじ
いちゃん、ひいおばあちゃんのおはかまいりもしま
した。三人のことはよくおぼえていけないけれど、今
のぼくたちがいるのは、ごせんぞさまのおかげだよ
と、おかあさんが教えてくれたので、ごせんぞさま
をだいじにしようと思いました。

かごしまのいえにかえる前、おぶつだんに手を合
わせました。そのあと、おとうとがぼくたちのまね
をして、かねをチーンとならし手を合わせ、あたま
をぺこっと下げていました。それを見てあーばは、
「かわいいね。」

とにっこりして言いました。

ぼくは、おとうとが大きくなったらしようろうさ
んのことも教えてあげようと心にきめました。

